

講義名	経済学特論			授業形態	
担当教員	仲間 瑞樹	開講期・曜日・時限	前期 火曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	1年生

主題と概要

受講を希望する大学院生は、以下をよく読み、その上で本科目を受講をする、受講をしないを決定してください。

この講義は経済学分野の大学院生あるいは経済学分野の研究を行う大学院生を念頭においた講義です。具体的には修士論文作成のために経済学分野の論文や専門書を読む必要があり、それらを理解するために必要となる経済理論（2024年度はミクロ経済学分野）を学ぶと同時に、受講生には問題を教室内で解き、発表をしてもらうといった演習も行います。

経済学分野の大学院生として経済学分野の論文を執筆する際には、新しい視点と豊かな発想によって、新しい価値を生み出す力が求められます。この講義での学習を通じて受講生には、そのような力を蓄えてもらいます。

到達目標

(1) ミクロ経済学理論、マクロ経済学理論に基づく論文や専門書を自力で読むことができるようになる
(2) ミクロ経済学理論・マクロ経済学理論に基づくモデルを自身の手で活用できるようになる

提出課題

教室内で取り組んでもらう中間課題と期末課題を合計2回課す。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

課題については採点終了後、解答を添付する形で返却する。

評価の基準

- 出席
5回以上の無断欠席は中間課題、期末課題を提出したとしても、単位認定対象者から除外します。
- 中間課題（50%）
- 期末課題（50%）

履修にあたっての注意・助言他

受講を希望する大学院生は、以下をよく読んでください。

この講義では以下の予備知識を前提とします。

- 大学の学部3年生・4年生レベルのミクロ経済学、マクロ経済学、経済数学

上記の科目の予備知識がない場合、講義理解が難しいです。講義内では上記レベルの科目の説明をしないので、注意してください。

教科書

.使用しない。				
---------	--	--	--	--

参考図書

.ミクロ経済学。	西村和雄	東洋経済新報社	4070	9784492311813

その他

必要に応じて講義中に上記の参考図書以外の参考文献を紹介する。

授業計画

- 需要・供給理論
- 需要・供給理論
- 需要・供給理論の応用
- 消費者理論
- 消費者理論
- 消費者理論
- 中間課題
- 生産者理論
- 生産者理論
- 0 生産者理論
- 1 市場の失敗
- 2 市場の失敗
- 3 市場と効率性
- 4 市場と効率性
- 5 期末課題

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

講義内容の復習（2時間から3時間）
講義で扱った練習問題の復習（2時間から3時間）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

ミクロ経済学の理論の学習を通じて、そして問題演習を通じて「理論的・実証的な課題を研究するために必要な科学的な方法を身につけていること」を達成できる。

またミクロ経済学の理論を現実の経済問題に適用するための講義トピックを介して、「研究者として、流通科学諸分野における豊かな学識と研究能力を身につけていること、または高度専門職業人として、より実践的・課題解決的な能力を身につけていること。」を達成できる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

特になし

実務経験の有無及び活用

該当せず

備考

繰り返しになりますが、この講義はミクロ経済学・マクロ経済学分野の理論と、それらを理解するための数学を中心に学習し、受講生には様々な問題も講義内で解いてもらい、発表してもらいます。

学部3年生・4年生レベルのミクロ経済学、マクロ経済学、経済数学の知識があることを前提に講義します。これらの講義を履修、学習したことのない受講生は、講義理解が困難になりますので講義履修にあたっては注意してください。